

- ・自殺の危険因子チェック（質問・回答による自動判定）
- ・メンタルケアについての情報
- ・立ち直り事例の紹介
- ・自殺に関する知識や常識の間違いの理解（自殺を口にする人は実行しないというのは間違い，自殺未遂経験者は再企図しないというのは間違い，ということなど。）
- ・受診の仕方，相談の仕方
- ・受診先精神科医療機関情報（前掲）
- ・相談内容別相談先情報（前掲）
- ・具体的な相談行動に結びつけるための電子メールによる相談サービスの提供
- ・診察や相談を勧めるための言い方
- ・企業・経済団体等として期待される自殺予防への取り組み

#### (5) 社会での自殺予防広報の推進

社会における自殺予防理解の普及啓発を目的として，次のような情報提供を行う。

（提供情報例）

- ・自殺念慮の状況についての説明
- ・自殺念慮者が出すサイン，特に直前のサインの理解（前掲）
- ・自殺に関する知識や常識の間違いの理解（前掲）
- ・危険性判断，予防法
- ・メンタルケアについての情報
- ・自殺予防活動の概要
- ・関係団体等の情報提供
- ・自殺予防活動への寄付についての情報
- ・ボランティアに関する情報（募集・応募）
- ・インターネット上の情報などについて，自立的に偏りなく受け止めるためのメディアリテラシー教育についての情報

#### (6) 行政・関係機関・民間団体・マスコミ等の支援

関係機関や団体等の自殺予防活動の支援を目的として，次のような情報提供を行う。またNPO団体による活動への支援も行う。

（共通的に提供する情報の内容）

- ・啓発用素材や事例集
- ・各種報告書
- ・自殺予防活動のガイドライン
- ・相談先一覧等の提供
- ・自殺予防活動の紹介
- ・支援者養成支援（研修会等の開催情報など）

#### ① 国，都道府県，市町村向け

行政機関による自殺予防対策を推進・支援することを目的として，次のような情報を提供する。

（提供情報例）

- ・広報マニュアル
- ・対応マニュアル
- ・事例集，広報・啓発用素材集，各種データ

#### ② 保健・医療・福祉関係機関，専門職向け

医療機関など保健・医療・福祉関係機関や地域での自殺予防活動に従事する専門職による自殺予防活動を支援するため，次のような情報を提供する。

（提供情報例）

- ・相談者同士の情報交換の支援，相互支援の進め方や事例
- ・事例集，広報・啓発用素材集，各種データ

#### ③ 自殺予防に関わる地域の団体等向け

地域の社協などの福祉団体，自殺予防活動を行っている民間団体，家族介護者会，地域介護ボランティア等の住民組織などの活動を支援するため，次のような情報を提供する。

（提供情報例）

- ・専門家からの助言システム（こころの医療，福祉制度，法律関係）
- ・運営支援情報
- ・事例集，広報・啓発用素材集，各種データ
- ・相談者同士の情報交換の支援，相互支援の進め方や事例，フォローの仕方

#### ④ マスコミ向け

自殺を過度に取り上げ詳細に報道することによる連鎖自殺誘発を防止するとともに，自殺が不可避のものではなく適切な相談などの支援対策が有効であることなどの理解を広げるためのマスコミの協力を得ることを目的として，次のような情報を提供する。

（提供情報例）

自殺報道ガイドライン

相談先一覧等の提供

自殺予防活動の紹介

- ・事例集，広報・啓発用素材集，各種データ

#### (7) 自殺予防活動・研究支援

自殺予防の研究者への支援を目的として，

次のような情報提供を行う。

(提供情報例)

- ・情報交換支援，基礎データや事例情報の提供
- ・予防手法
- ・予防対策の効果
- ・自殺メカニズムの研究
- ・ポストペンションの研究

## 5 Web サイト上での情報提供・交換の手法

上記4で検討した内容について，それぞれの対象者別に必要な情報を提供していくためには，その内容や目的に応じて適切な情報提供の方法を取る必要がある。ここでは，Web サイト上での情報提供・交換において採用できる方法についてそれぞれの特性を検討し，目的や内容に応じた活用可能性を検討する。

### (1) 情報提供・交換の形態

Web サイトを通じた情報提供・交換・活用には次のような方法がある。これらには，一般に公開するものと，登録によりIDとパスワードなどで利用者を認証するものとかある。また，接続者のIPアドレスなどでその属性を判断し，表示する画面を変更することもありうる。

また，登録者を中心としてユーザー同士が情報交換を行う場を提供するものをコミュニティサイトと呼び，Web サイトの普及とともに近年発展している。

さらに，情報提供の内容としては，文字情報のほか，静止画，動画，音声などがあり，動画と音声については，一旦ダウンロードしてから再生する場合と，ダウンロードしなから逐次再生する場合（ストリーミング<sup>12</sup>）とかある。

<Web サイト上>

#### ① 壁新聞型

- ・一方的な情報の掲示

#### ② TV視聴型

- ・ストリーミングにより画像と音声を送信する
- ・研修用のビデオ教材として活用することも考えられる

#### ③ リンク型

必要な情報がある Web サイトへの接続の

ための目次機能

#### ④ 情報検索型

- ・キーワード検索 データベースの情報を利用者が検索（当該 Web サイト内の検索と，Web サイト上全体を対象とするもの）
- ・Q&A うつ状態ということの理解を深めるなど

#### ⑤ 自動診断型

- ・質問に答えていくことによりうつ状態の程度などを自動的にチェックし，あらかじめ用意された回答を提示（ウィザート方式）

テキスト（文字）によるもの，音声によるもの，ライブ映像と音声によるもの（例 東京都こども医療ガイド）

#### ⑥ 有人相談型

- ・専門スタッフが待機しており，チャット（対話）により相談に対応

テキスト（文字）によるもの，音声によるもの，ライブ映像と音声によるもの

#### ⑦ 参加者対話型

- ・掲示板（参加者間の情報・意見交換）  
オンラインチャット（多人数参加型）

#### ⑧ 疑似体験型

- ・映像や音声などを使って，自殺を実行した後に起きることをハーチャルに疑似体験（現場検証，司法解剖，事情聴取，葬儀，相続，遺族の心のケア）

#### ⑨ グループウェア型

ファイルやスケジュール，情報の共有のためのナレッジ・マネジメント・システム

<電子メール等>

#### ⑩ 電子メール

通常の電子メールの交換によるもの

#### ⑪ メーリングリスト型

登録された関係者への電子メールの一斉送信（関係者相互間での情報共有）。（メールサーバ上で登録者を一括管理する点で，各パソコンで複数名をグループとして扱い送信するグループメールとは異なる。）

#### ⑫ ニュース配信型

- ・メールマガジン（メルマガ 関連情報の定期的提供）

情報提供とともにウェブサイトへのアクセス促進も目的とする

### (2) 携帯電話の活用

<sup>12</sup> 音声と画像データをインターネットで受信しながらリアルタイムで再生を行うこと

近年、携帯電話による Web サイトの利用は急速に伸びており、自殺予防の Web サイトにおいても、重要なツールであると考えられる。

- ・携帯電話用 Web サイトの開設
- ・携帯電話から Web サイトにアクセスした際に、そのまま相談等の電子メールを発信でき、あるいはチャットに参加できることや、携帯電話から Web サイトにアクセスした際に、電子メールを送信する操作をしなくても「携帯電話のメールアドレス通知承諾ボタン」により容易に携帯電話のメールアドレスを通知でき、管理者側から携帯電話に対して電子メールを送信できること、などの工夫も考えられる。

## 6 Web サイト開設に際しての留意点

Web サイトの開設については、次のような点についての配慮が求められる。詳しくは、関係団体からルール&マナー集なども出されているので、ここではポイントだけを提示しておく。

### (1) 個人情報の保護について

個人情報の保護については、個人情報保護法、行政機関個人情報保護法、独立行政法人等個人情報保護法、地方自治体の個人情報保護条例など、一連の法制度の整備が進められている。これらの法令においては、「個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることにかんがみ、その適正な取扱いが図られなければならない。」との基本理念により、その保護のための規定がされている。

特に、インターネットによる情報提供については、個人情報か大量にかつ広範囲に流出してしまう危険が大きいことから、1987年の刑法改正においてデータの書き換えや抹消などの不正アクセス行為について電子計算機損壊等業務妨害罪が新設され処罰対象となっているほか、2000年施行の不正アクセス禁止法により不正アクセス行為自体が処罰対象とされている。

しかし、依然としてなりすましや故意の漏えいなどにより個人情報が侵害される例が絶えないので、自殺予防のための Web サイトの開設においても、OECDの「プライバシー保護と個人データの流通についてのガイドラインに関する理事会勧告（プラ

イバシーガイドライン、1980）」に示されている8原則（収集制限の原則、データ内容の原則、目的明確化の原則、利用制限の原則、安全保護の原則、公開の原則、個人参加の原則、責任の原則）の考え方を基本として、上記関係法令にのっとり、適切な対応を図っていく必要がある。特に、ネット上での相談などについては、個人情報の保護に十分な配慮が求められる。

### (2) 知的所有権や人権等への配慮

インターネット利用上の倫理として、肖像権や著作権などの知的所有権やプライバシーなどの人権への配慮。特に個人情報の保護については、十分な配慮が必要である。

### (3) セキュリティへの配慮

ウイルスへの対策や、外部からの悪意の侵入による内容の改ざんや他のサーバへの攻撃などに利用されないための配慮が必要である。

個人情報は扱わないようにするのか原則であるか、アクセスした人に関する情報なども漏洩しないように、SSL等による暗号化など、最大限の配慮が求められる。

### (4) ユニバーサルデザインへの配慮

視力に障害のある人などにも読みやすいために明暗のコントラストに配慮するなど画面デザインや、使用するパソコンのOSやブラウザの種類やバージョンによって表示が大きく異なったり見えないということのないようなアクセシビリティの確保についての配慮が必要である。

### (5) 汎用性の確保

Web サイト上での動画アニメーション表示ソフトなどによるインパクトのある画面にするための技法が数多く開発されているが、利用者のパソコン環境の多様性に配慮し、できるだけ多くの人々に同一条件で見てもらえるように配慮する必要がある。

また、チャットなどのサービスを提供する場合にも、その利用時において機能追加のプラグイン・ソフトウェアをダウンロードしてインストールすることなく、スムーズに利用できることが望ましい。

### (6) 基本的なマナー

更新日の表示や開設者の連絡先の掲出や、ファイルをダウンロードさせる場合のファイルサイズの表示などの配慮が必要である。

### (7) 安定的運用

Web サイトの運用においては、ウイルスや

ハッカー<sup>13</sup>（クラッカー）対策のほかにも、アクセスが集中した時やデータやシステムのバックアップのために、ミラーリング<sup>14</sup>などの二重化対策が求められる。

#### (8) 不測の悪影響の予防

Web サイトでの掲示板などにおいて、悪意又は無意識に心理的な誘導などの悪影響が発生しないような配慮と運営が求められる。

#### (9) 自己責任の原則

匿名性が前提となる Web サイトにおいては、双方向とは言いながらコミュニケーションの中身には限界があり、それを明示して自己責任の原則での利用を求める必要がある。

#### (10) 開発体制と運用体制

これまで述べた Web サイトの内容に関する留意点のほか、その開発体制と運用体制も重要である。

開発体制については、システム開発会社による技術主導型のものにならないように配慮するとともに、あれもこれも型の雑然とした内容にならないように関係者の意見を十分に整理し、焦点を絞った利用しやすい Web サイトづくりをめざす必要がある。このため、Web サイト全体の開発を調整するコーディネーターが必要である。

また、運用体制については、Web サイトの内容が相当のボリュームになることが想定されるため、各分野毎に内容の充実と情報の頻繁な更新を行うためには、担当範囲を整理したしっかりとした運用体制を準備する必要がある。特に、オンラインでの相談に対応する場合には、相談対応者の訓練や無理のない対応体制の整備が必要となる。

さらに、利用状況を把握しつつ、柔軟に内容の変更や拡充を図っていくことが重要である。

<sup>13</sup> 悪意を持ってコンピュータに侵入してデータの改ざんや破壊などを行う者を指して使われるが、本来はコンピュータ技術に詳しい人のことであり、悪意の人については正確にはクラッカーと呼ばれる。

<sup>14</sup> 一般的にはディスク装置のデータをリアルタイムで複製することを指すか、同時に、同じ内容を持つ複数のサーバを用意して、Web サイトにアクセスが集中して利用できなくなることを防いだりバックアップ機能を確保するという意味もあり、ここでは後者の意味。

#### おわりに

自殺の問題をタブー視せずに社会的な取り組みを進めてきた米国等においては、自殺予防のための Web サイトは極めて充実しており、自殺予防のための緊急的支援だけでなく、周囲の人へのサポートや残された人々へのケア、自殺予防の支援者のための研修や教材の提供、自殺予防の普及啓発、自殺予防研究の推進など、幅広く厚みのある内容の情報が提供されている。

わが国における Web サイト上での自殺予防活動は、これらと比較すると質・量ともに格段に立ち遅れていると言わざるを得ない状況である。

自殺について語ることをタブー視することなく、自殺予防に対して社会として取り組んでいくために、Web サイトの活用は有効と考えられ、公的機関・民間団体を問わず幅広い分野での取り組みが求められている。

#### 主要参考文献等

- 1 佐名手三恵, 竹島 正 一般市民がアクセスできる自殺関連情報の実態に関する研究, 平成13年度厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業)「自殺と防止対策の実態に関する研究(主任研究者 堺宣道)」研究協力報告
- 2 佐名手三恵, 竹島 正 Web サイトにおける自殺に関する情報提供の実態と応用に関する研究, 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)「自殺と防止対策の実態に関する研究(主任研究者 今田寛陸)」研究協力報告
- 3 E S シュナイトマン「自殺者のこころ」白井徳満ほか訳, 誠信書房, 2001
- 4 高橋祥友「青少年のための自殺予防マニュアル」金剛出版, 1999
- 5 高橋祥友「群発自殺」中公新書, 1998
- 6 浜田忠久ほか「インターネットと市民」丸善株式会社, 2003
- 7 岡村久道「個人情報保護法入門」商事法務, 2003
- 8 自殺防止対策有識者懇談会報告「自殺予防に向けての提言」厚生労働省 2002
- 9 「インターネットを利用する方のためのルール&マナー集」財団法人インターネット協会 <http://www.iajapan.org/>

(付表) 目的別・対象者別に提供すべき主な情報の例

区分	予防	未遂	既遂	職場	社会	支援		
						①本人	②周囲	①行政
理解	・自殺念慮の状況についての説明	○	○		○	○	○	○
	自殺念慮者が出すサイン、特に直前のサインの理解		○		○	○		○
	自殺に関する知識や常識の間違いの理解		○		○	○		○
危険度評価	うつ病度自己チェック(質問・回答による自動判定)	○						
	・うつ病度チェック(質問・回答による自動判定)		○					
	自殺危険因子自己チェック(質問回答による自動判定)	○						
	自殺危険因子チェック(質問回答による自動判定)		○					
	危険性判断、予防法		○			○		
立ち直り支援	周囲の人が理解してくれるというメッセージの発信	○		○				
	・周囲が理解しているというメッセージの提供の仕方		○					
	苦しさを表現する機会の提供(チャット、掲示板)	○			○			
	・自分の気持ちを整理するための思いの表現の場の提供			○				
	自殺以外の他の選択肢の想起誘導	○						
	メンタルケアについての情報	○	○	○	○	○		
	・具体的な対応方法や留意点		○		○			
	・立ち直り事例、体験談等の提供	○	○	○	○	○		
相談誘導	・立ち直り相互支援グループやワークセッション情報			○				
	自殺念慮者からの相談への対応マニュアル		○					
	・相談(コンサルテーション)の必要性と効果	○	○	○	○	○		
	診察や相談を勧めるための言い方		○					
相談影響	相談関連情報(受診の仕方、相談の仕方)	○	○	○	○			
	・精神科医療機関情報(最寄検索、連絡先、受付時間、地図等)	○	○	○	○			○
	相談内容別相談先情報(家庭、健康医療、経済生活、経営資金、職場仕事、異性、学校関係などについての連絡先等)	○	○	○	○			○
既遂関連	電子メールによる相談サービスの提供	○	○	○	○			
	チャットによる相談サービスの提供	○		○				
	残された人の状況への配慮導入(事例等)	○						
	自殺によって起こることの疑似体験	○						
職場関連	・社会的影響の具体的説明(関係先への損害弁償等)	○						
	・対応の留意点、起こりうる反応や症状についての説明							
	特に影響を受ける可能性のある人に対する支援の仕方				○			
	メンタルケアの必要性、立ち直り事例の紹介、体験談				○			
	生活面、経済面への相談などの配慮の必要性				○			
	事後対応マニュアル(家族、警察、病院、家主、職場、役所等)				○			
社会啓発	・職場での心のケアマニュアル(周囲の対応、配慮事項)				○			
	具体的事例情報(企業での実例、責任関係、成果事例等)				○			
	職場でのコンサルテーションに関する情報				○			
	職場での組織的な対応についての情報提供				○			
	職場の管理者等のための研修会 講演会 セミナー等				○			
行政	企業 経済団体等に期待される自殺予防への取り組み				○			
	自殺予防活動の概要					○	○	
	関係団体等の情報提供					○		
	自殺予防活動への寄付についての情報					○		
民間団体等	ボランティアに関する情報(募集・応募)					○	○	
	メディアリテラシー教育についての情報					○		
	各種報告書						○	○
	自殺予防活動のガイドライン						○	○
	支援者のための相談先情報		○		○		○	○
	支援者養成支援(研修会等の開催情報など)						○	○
	・広報マニュアル						○	○
	事例集、広報 啓発用素材集、各種データ						○	○
相談対応者同士の情報交換、相互支援の進め方や事例						○	○	
専門家から支援システム(医療、福祉制度、法律関係)						○	○	
組織運営支援情報							○	
・自殺報道のガイドライン							○	

(注) それぞれ関係するものは多いが、主に関係するものだけに○印を付した。



(参考資料2) 周産期医療の相談システム

○ 概要

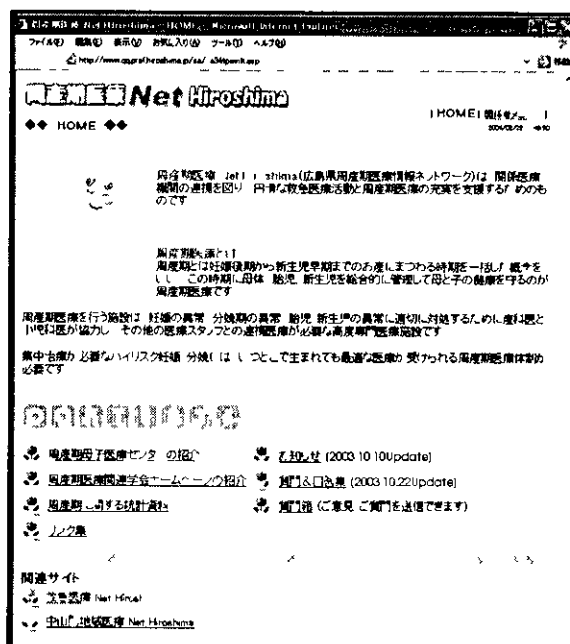
広島県救急医療情報ネットワークのサブシステムとして同時期に構築されている。

周産期医療<sup>15</sup>に関する専門家の情報共有システムや一般県民への情報提供のほか、医療相談にも対応している。

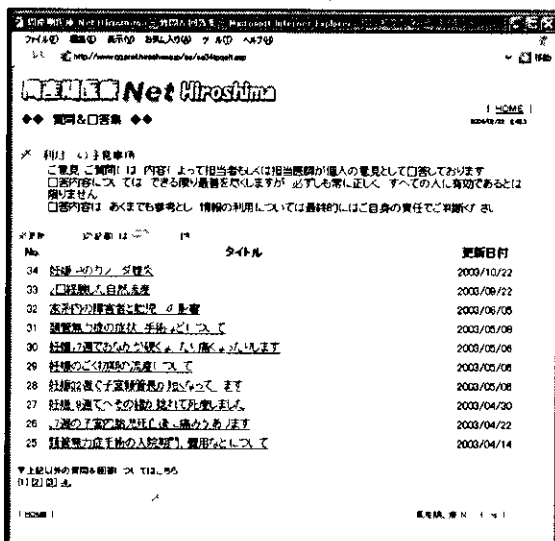
○ 周産期医療相談

1対1の医療相談ではなく、

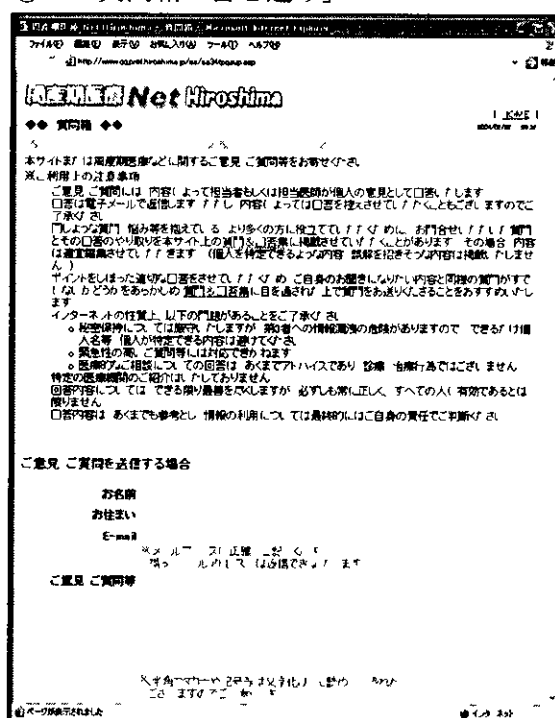
- ・質問者はまず「質問&回答集」を確認する、欲しい内容かなければ、質問箱に匿名で書き込みを行う、
- ・複数の医師かその質問を電子メールで自動的に受ける、
- ・メールを受けた医師は自分の専門分野であればQ&Aデータベースに書き込みを行う、
- ・公開する前には他の医師に確認、という手法を採用している。



① 「質問&回答集」で確認



② 「質問箱に書き込み」



<sup>15</sup> 妊娠後期から新生児早期までの母体、胎児、新生児を総合的に管理して母子の健康を守る医療。

(参考資料3) 東京都こども医療ガイド

- 運用開始  
平成15年10月
- 内容  
音声による対話型の医療相談。  
病気やケガの対処の仕方や病気の基礎知識、子育てアドバイスなどが音声認識により対話方式などで可能。

- キャラクターの採用  
利用者へ親しみ安さを伝えるため「家族」をモチーフにしたキャラクターを選定し、相談内容に応じて若い女性や父親、おばあさんなどのキャラクターがガイドして知りたい情報へ案内してくれるシステム。

キャラクターは、それぞれ役割が与えられており、ママ（緊急の対処方法）、パパ（子育ての基礎知識）、おばあちゃん（子育てのアドバイス）となっている。

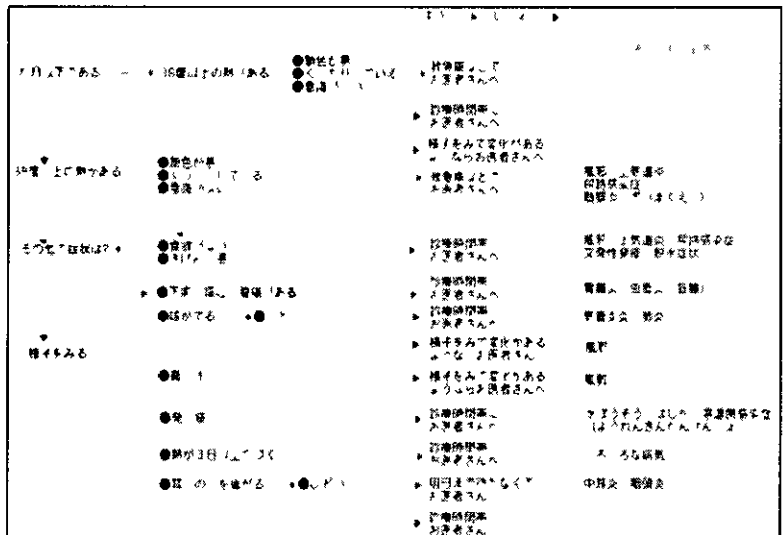
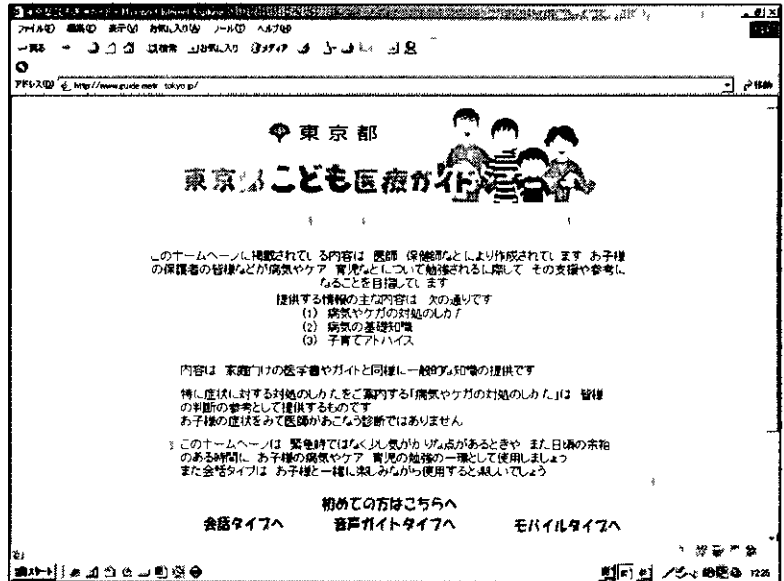
- 相談内容と回答のフロー化  
それぞれの内部のデータベースは、対話のシナリオを作成してフロー化しており、このフローが最も大事な知識ベースとなる。

- 3種類の利用方法

- 利用者の環境にも配慮して
  - ・会話タイプ（音声認識技術を使った対話形式）
  - ・音声案内タイプ（動画を活用した音声案内形式）
  - ・モバイルタイプ（携帯電話を想定して、テキスト形式）
- の3種類のコンテンツを作成。

それぞれのコンテンツから、東京都医療機関情報案内システムへの連携をはかり、結果として、医療機関の選択につなげるような仕組みとしている。

会話タイプは、プロモーション的な役割を果たし、ものめずらしさと楽しさを強調して、利用者を使いやすく誘導するか、実際には音声案内タイプや携帯電話タイプが良く使われる傾向にある。





(参考資料4) 自殺予防のためのWebサイトの紹介

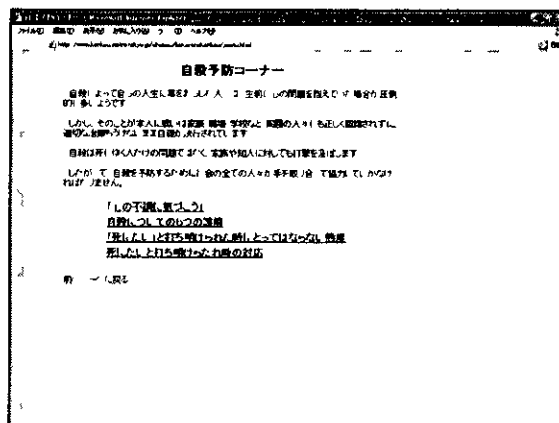
1 日本

(1) 行政機関

- 東京都, 心の健康, 「自殺予防コーナー」

<http://www.kenkou.metro.tokyo.jp/chusou/kokoronokenkou/jisatu.html>

主な内容 心の不調に気づこう, 自殺についての5つの誤解, 「死にたい」と打ち明けられた時にとってはならない態度, 死にたいと打ち明けられた時の対応

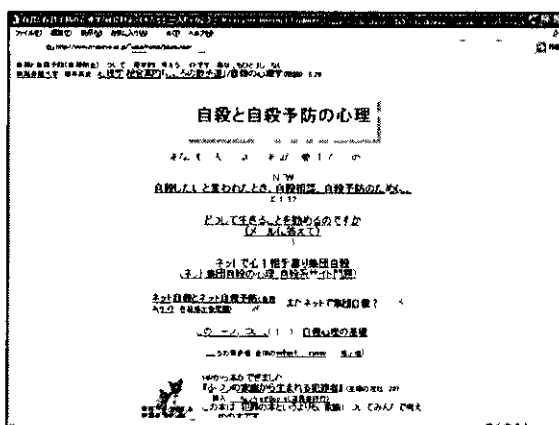


(2) 大学, 学会等

- 新潟青陵大学 碓井真史教授 「自殺と自殺予防の心理」

<http://www.n-seiryu.ac.jp/usu1/news/j1satu.html>

主な内容 自殺したいと言われたとき, 自殺予防のために, ネット自殺とネット自殺予防, 子どもの自殺, その特徴, 自殺心理の基礎

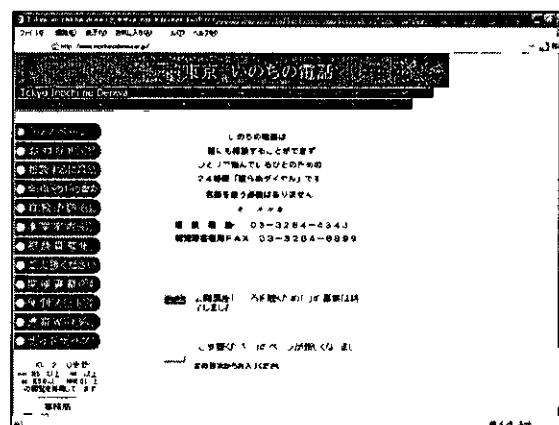


(3) 民間団体

- 東京いのちの電話

<http://www.inochinodenwa.or.jp/>

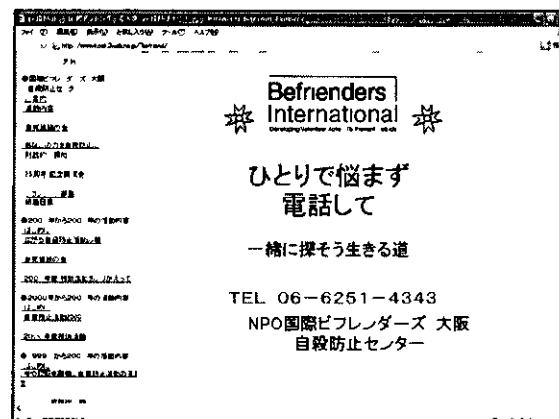
主な内容 相談するには, 全国いのちの電話, 自殺予防 (どうしても死にたくなるのでしよう, 死にたい人はどんなサインを出すのでしよう, 自殺未遂について知っていますか, とのよう話しかけたらいいのでしよう, あなたの大切な人が自殺してしまったら), 事業案内, 公開講座, 相談員募集, ご支援ください, 便利ノート (各種相談先, 福祉事務所, 保健所・保健福祉センター, 精神障害 依存症関係, 青少年問題, 女性問題, 高齢者問題, エイス・難病関係, 法律相談, 各種支援), 携帯Web



- NPO 国際ビフレンダース・大阪自殺防止センター

<http://www4.osk3web.ne.jp/befriend/>

主な内容 相談電話番号, 面接相談, 緊急出動, 訪問, 手紙による相談, フォローアップ, コーヒーハウス, 自死遺族の会, あなたの力を自殺防止に (相談ボランティア, 支援ボランティア), 財政的な援助 (寄付), ボランティア研修



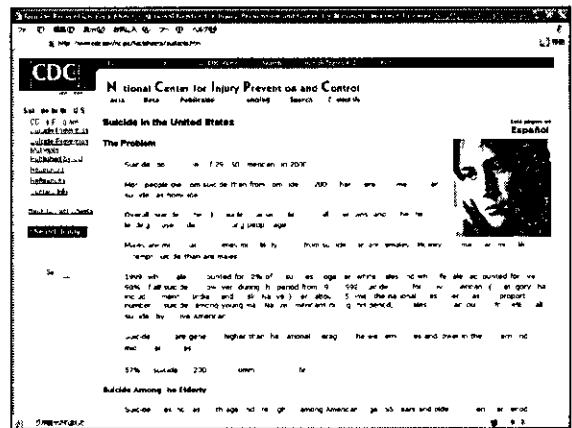
2 海外

(1) 行政機関

- CDC(Center for Disease Control and Prevention, 米国)

<http://www.cdc.gov/ncipc/factsheets/suifacts.htm>

主な内容 自殺の状況(問題点, 高齢者の自殺, 若者の自殺), CDCの自殺予防活動, CDC発行の自殺予防教材, 関係団体, 連絡先

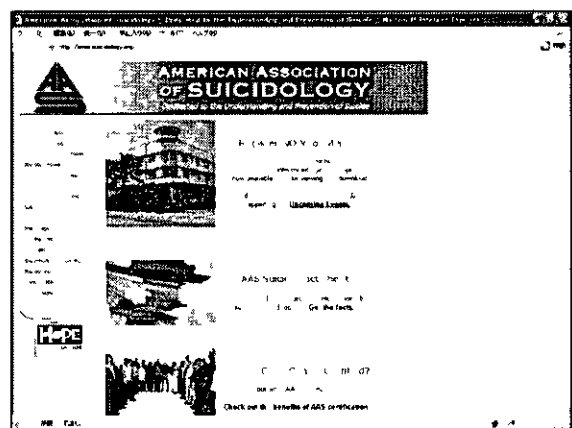


(2) 大学, 学会等

- AAS(American Association of Suicidology, 米国)

<http://www.suicidology.org/>

主な内容 組織紹介(ミッション, 目的, 会議, 研修, 出版, 自殺未遂経験者支援, 自殺予防センターの認証, 自殺予防活動の個人の認証), 自殺に関する情報(自殺のサイン, 自殺念慮者への対応方法, 自殺の危険の自己診断, 相談先), 出版物・ビデオの紹介, 出版物のオンライン販売, 危機センター, 会員制度, 関連リンク集, メディア(マスコミ用報道ガイドライン), 予防(自殺予防ガイドライン), 研究(各種研究支援制度の紹介), 学生(支援ボランティア募集), 支援グループ(地域別の紹介), 自殺未遂経験者(立ち直り支援), 治療(治療法の研究, 表彰), 総会開催案内など

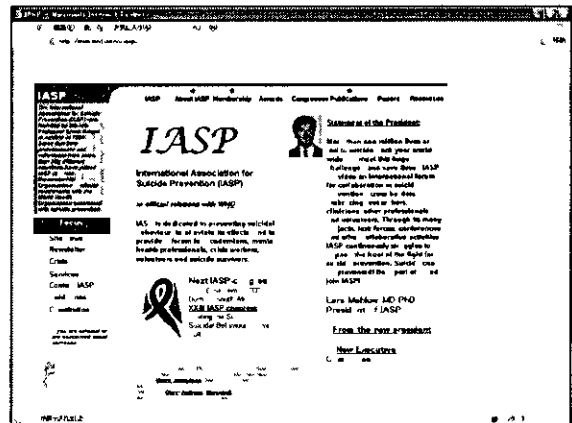


(3) 民間団体

- IASP(International Association for Suicide Prevention)

<http://www.med.uio.no/iasp/>

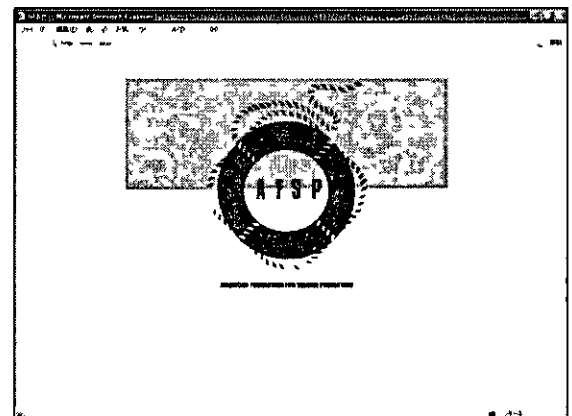
主な内容 発行物の紹介, 各種印刷物の販売



- AFSP(American Foundation for Suicide Prevention, 米国)

<http://www.afsp.org/>

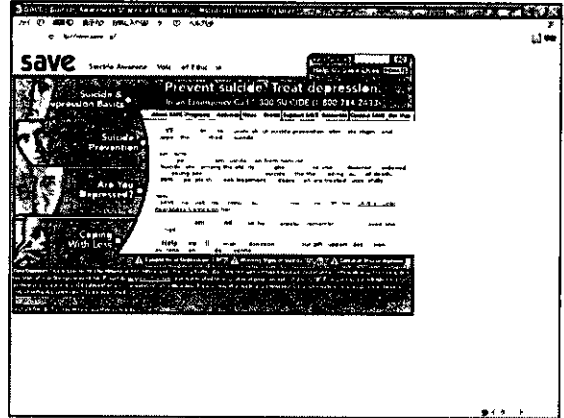
主な内容 自殺について(概要, うつ状態, 神経生物学的側面, 安楽死・自殺幫助, エイスと自殺, 若者の自殺), 新着情報(街頭行動, 各種研究報告, 研修プログラム情報), 活動紹介, 立ち直った人々(事例, 相互支援グループ, 映画, 物語, 会議), 研究(自殺予防研究支援, 研究報告の紹介, 研究支援金提供研究採択状況, 優れた研究への表彰), FAQ, リンク(参考資料5参照)



- SAVE (Suicide Awareness Voices of Education, 米国)

<http://www.save.org/>

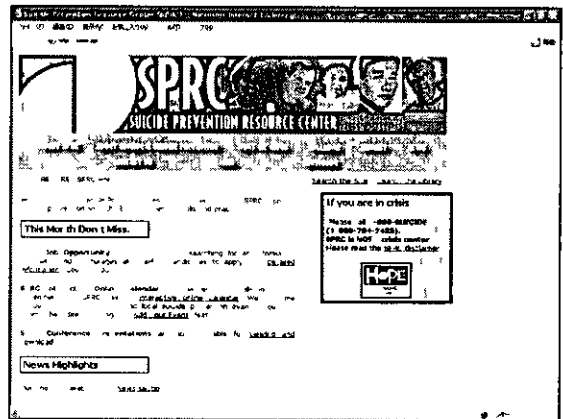
主な内容 相談連絡先, 組織紹介(ミッション, 目的, 対象, 歴史, 社会的認知, 役員, 資金提供者), 活動紹介(地域での教育, 専門家教育, 啓発広報, 出版物), ニュース・イベント(マスコミ, 広報資材, イベント, 受賞, 役員), 支援(ボランティア, 協賛企業, 寄付, 冠基金), 資材(地域活動資材, 参考資料, 書籍紹介, 書籍等注文, リンク, 統計, ポスター), 連絡先



- SPRC (Suicide Prevention Resource Center, 米国)

<http://www.sprc.org/>

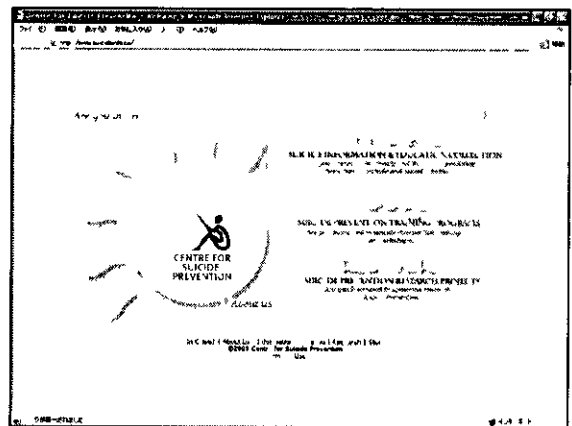
主な内容 相談連絡先, 組織紹介(ミッション, 目的, パートナー(AAS, AFSP等), FAQ), 自殺及び予防(概要, 統計, 公衆衛生面, 用語説明, 実証的活動, 政府の活動紹介), 実施事業(会議, 研修, 技術支援, 図書館機能), 行事予定, ニュース, 自殺未遂経験者と自殺予防, リンク集, 連絡先



- Center for Suicide Prevention (カナダ)

<http://www.suicideinfo.ca/>

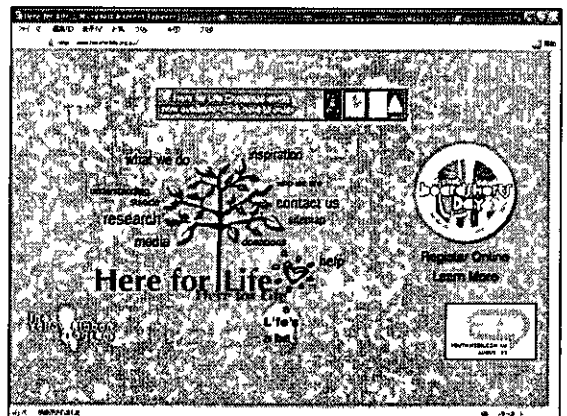
主な内容 組織紹介(組織構成, 連絡先), 相談先の紹介(独自の相談対応はしていない), 自殺予防情報・教育(資料データページ, FAQ), 自殺予防研修(当事者及び支援者, 教材, ワークショップ), 自殺予防研究, 書籍等販売(書籍, ヒデオ, パンフレット, 研修教材)



- Here for life (青少年向, オーストラリア)

<http://www.hereforlife.org.au/>

主な項目 組織紹介(構想, 目的, 活動, 特長, 戦略, 対象(11-24歳), 資金, 連絡先), 活動紹介(プログラム, 行事予定, ニュースレター), 自殺に関する理解, 自殺に関する研究, 投稿, 相談先一覧, 寄付受付



(参考資料5) アメリカ自殺予防財団の Web サイトの紹介

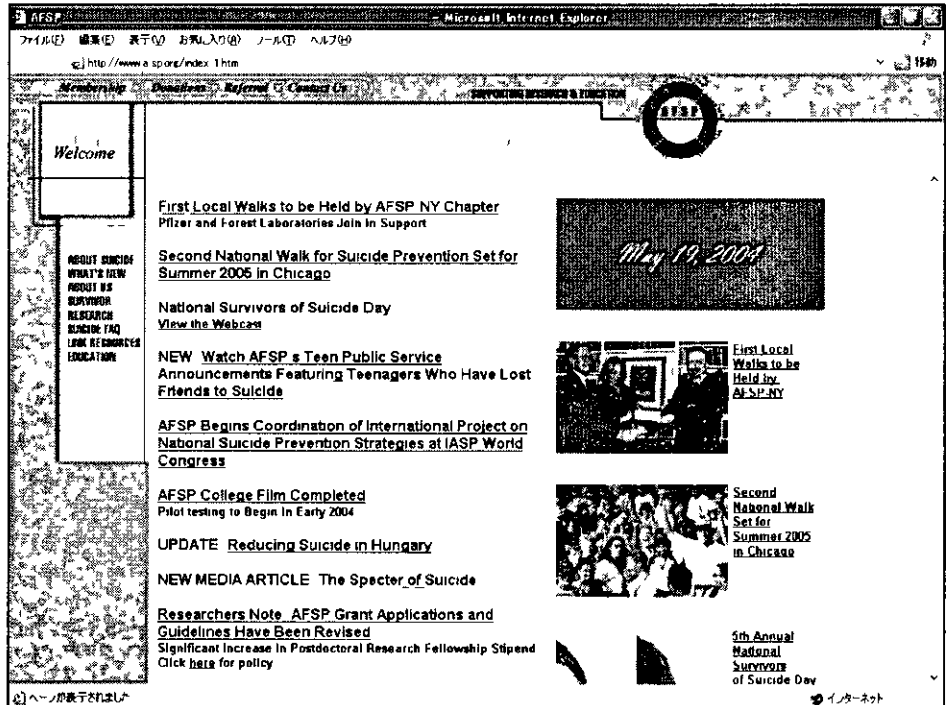
AFSP (American Foundation for Suicide Prevention, 米国)

URL <http://www.afsp.org/index-1.htm>

[主な内容]

■ トップページ

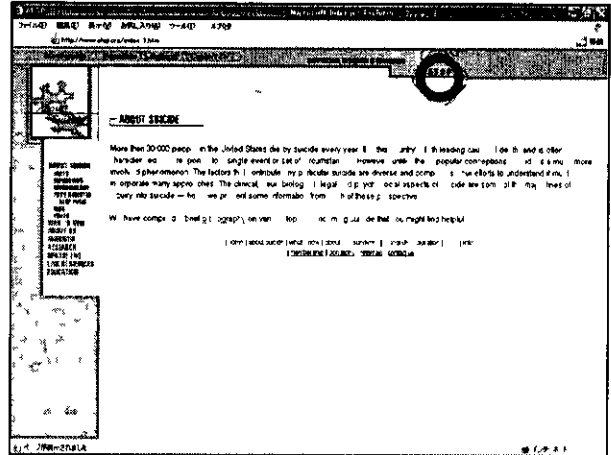
- ・ ニューヨーク支部による初の街頭ウォーク
- ・ 第2回全国自殺予防街頭ウォークは2005年夏にシカゴで
- ・ 全国自殺未遂経験者の日
- ・ 友人を自殺で失った若者たちに焦点を当てた公共広告放送
- ・ IASP (国際自殺予防協会) 総会での自殺予防戦略プロジェクトのコーディネート
- ・ 大学生向け自殺予防啓発短編映画の完成



- ・ 新着情報 ハンガリーにおける自殺減少 (かかりつけ医への研修による)
- ・ 新着記事 自殺の亡霊  
研究者向け 研究費助成申請ガイドラインの変更
- ・ 総額百万トルの研究助成決定
- 雇用 スタッフ公募
- 記者用 自殺報道の手引き, 今月の記事, 自殺報道の際に問い合わせできる認定精神科医一覧, 自殺関係統計資料
- 一般向 友人を自殺で失った若者たちに焦点を当てた公共広告放送, 出版・放送での責任ある自殺報道の推進方策, 第2回全国自殺予防街頭ウォークは2005年夏にシカゴで, 大学生向け自殺予防啓発短編映画の完成, AFSPの自殺予防指針
- 専門家向 自殺未遂経験者のワークショップ報告, 断食による終末期患者の自殺に関する初研究, 研究費助成申請ガイドラインの変更, 臨床医向けの AFSP のうつ状態及び自殺に関する奨励対応意見が米国医師会報に掲載, プッシュ大統領のメンタルヘルスに関する新自由委員会最終報告, AFSP が新全国自殺予防リソースセンターに協力, 臨床医のうつと自殺予防プロジェクト, ハワイでの自殺幫助, 精神科医と心理学者を対象とした患者の自殺に関する調査, オンラインでの継続的医療研修証明プログラム
- 自殺未遂経験者向 全国自殺未遂経験者の日, 自殺未遂経験者のワークショップ報告, 自殺未遂経験者 e-ネットワークへの参加を, 自殺未遂経験者のための新しい手引きの発行, 自殺未遂経験者支援グループ世話役研修会, 自殺により取り残された子どもたちに関する研究紹介, AFSP 自殺未遂経験者支援グループ一覧, エリック ヘンディンによる自殺未遂経験者のための歌

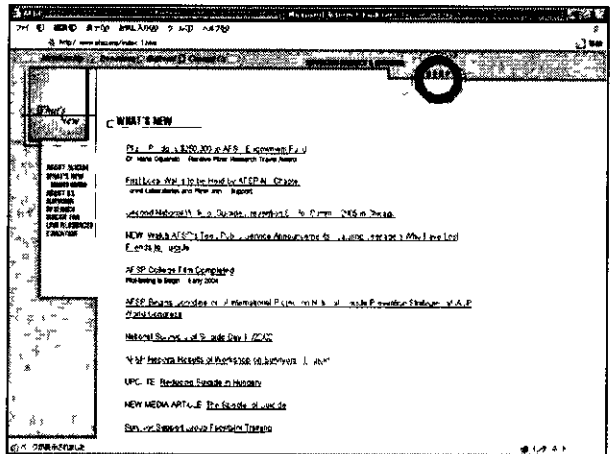
■ 自殺について

- ・自殺についての基礎情報、臨床的、法的、心理学的アプローチが必要であることなど
- ・事実について（自殺率、自殺全般、子とも思春期の自殺、高齢者の自殺、女性と自殺、拳銃と自殺、アルコールと自殺、自殺の危険サインなど）
- ・うつ状態についての説明
- ・神経生物学的側面について
- ・安楽死、自殺補助について
- ・エイズと自殺
- ・若者の自殺に関する情報



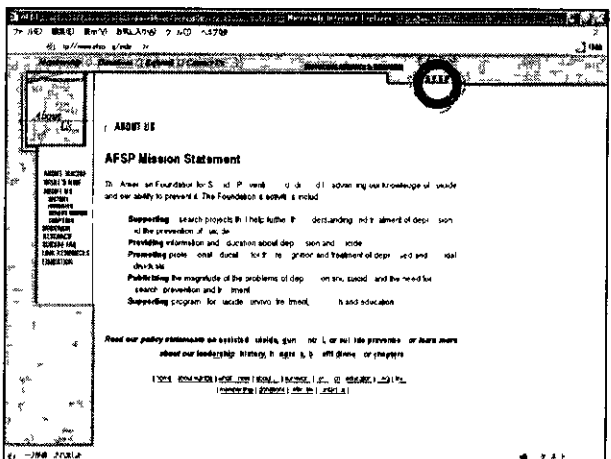
■ 新着情報

- イベント情報
  - ・自殺予防のための市民ウォーク
  - ・第2回全国自殺予防街頭ウォーク
  - ・若者たちに焦点を当てた公共広告放送
  - ・大学生向け自殺予防啓発短編映画の完成
- 各種研究報告
  - ・メディアのための自殺報道留意点
- 研修プログラム情報
  - ・自殺研究者のためのワークショップ
- その他
  - ・財団の自殺予防ポリシーの改定



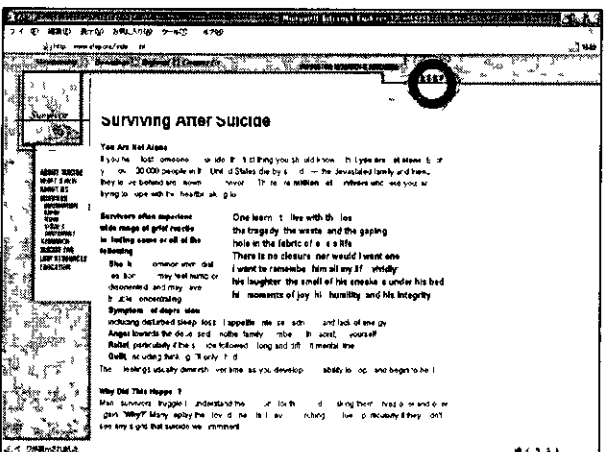
■ 財団の紹介

- 財団の使命
  - ・研究支援
  - ・自殺に関する情報や教育の提供
  - ・落ち込んだり自殺を考えている人の認知と対応についての専門教育
  - ・自殺予防に関する出版
  - ・自殺から立ち直る人々のための支援
- 財団の歴史
- 表彰受賞者
- 募金夕食会
- 支部のページ



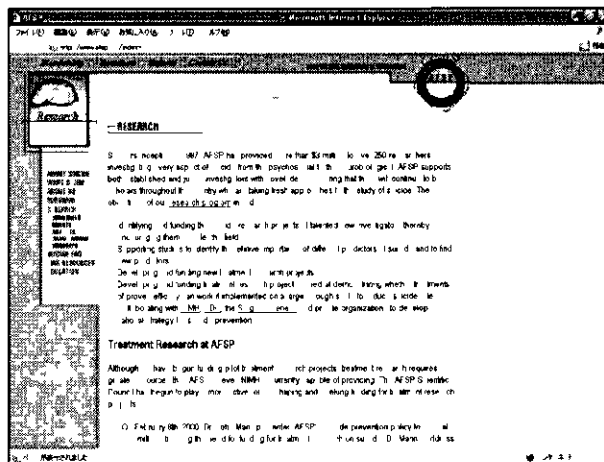
■ 自殺からの立ち直り

- ・あなたは一人ではない、なぜ起きたのか、愛する者に自殺された喪失感への対応など
- ・よくある質問（FAQ）
- ・相互支援グループについて
- ・立ち直りについての映画の紹介とビデオの販売
- ・自殺未遂や身近な人の自殺の喪失感から立ち直った人の話や本の紹介
- ・自殺から立ち直った人たちの日（Web 上での全国会議の放送やオンラインチャット）



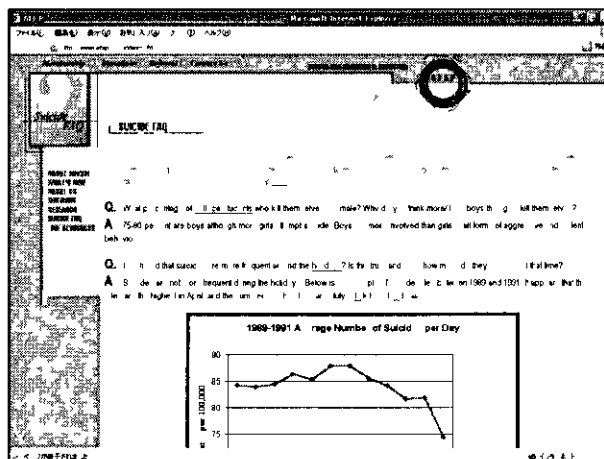
■ 研究

- 財団からの自殺予防研究への支援
  - ・ 16年間で250人以上の研究者に3億数千万円の研究費を支援, など
- 最近の支援研究報告の紹介
  - ・ エイス, 自殺幫助, 子ども 思春期, 麻薬乱用, 老年医学, 女性など
- 新たな研究支援への応募募集
  - ・ 分野別募集一覧, 応募様式
- これまでの研究報告の紹介
- 研究支援金提供研究採択状況
- 優れた研究への表彰



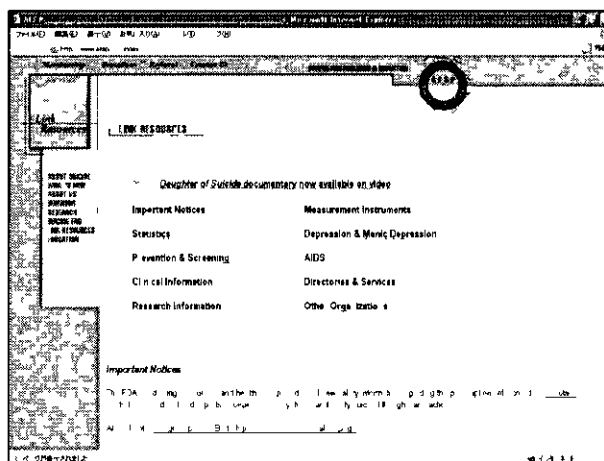
■ 自殺に関するよくある質問と回答 (FAQ)

- ・ 学生の男女別の自殺割合
- ・ 自殺発生日や時刻の特徴
- ・ 自殺のサインと周囲の人の責任など
- ・ 学生の最大の自殺原因
- ・ 相談を受けることを勧める以外にできること
- ・ 相談を受けやすくするためにできること
- ・ 最も多い自殺の手段と男女別の違い



■ 多様な情報へのリンク

- ・ 重要な通知
- ・ 統計
  - 自殺予防等に関する情報
- ・ 臨床関係情報
- ・ 研究情報
- ・ 他の機関 団体等



■ 教育 研修

- ・ 各種研修会やセミナーなどの案内, 過去の講演等の記録 (アーカイブ)
- Web サイト上の教材による勉強とプリントアウトした試験回答用紙の郵送による修了認証システムなど

■ 会員制度

- ・ 個人会員, 専門家会員

■ 寄附金

■ 相談先, 医療機関検索

■ 財団本部及び地域事務所の連絡先

平成 15 年度

「自殺と防止対策の実態に関する研究」研究班名簿

主任研究者	今田 寛陸	国立精神・神経センター精神保健研究所
分担研究者	金 吉晴	国立精神・神経センター精神保健研究所
	清水 新二	奈良女子大学生活環境学部
	清水 徹男	秋田大学医学部精神科学講座
	竹島 正	国立精神・神経センター精神保健研究所
	中村 好一	自治医科大学公衆衛生学教室
	野村 東太	ものづくり大学
	山崎 健太郎	筑波剖検センター
研究協力者	宇田 英典	鹿児島県伊集院保健所
	川野 健治	国立精神・神経センター精神保健研究所
	佐藤 洋	新潟県福祉保健部健康対策課
	高橋 祥友	防衛医科大学校
	立森 久照	国立精神・神経センター精神保健研究所
	千村 浩	鹿児島県保健福祉部
	橋本 功	岩手県久慈保健所
	橋本 康男	広島大学 大学情報サービス室
	松岡 豊	国立精神・神経センター精神保健研究所
	三宅 由子	国立精神・神経センター精神保健研究所

(50音順)

---

平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

「自殺と防止対策の実態に関する研究」研究報告書

発 行 日 平成 16 年 4 月

発 行 者 「自殺と防止対策の実態に関する研究」

主 任 研 究 者 今 田 寛 睦

発 行 所 国立精神 神経センター精神保健研究所

〒272-0827 千葉県市川市国府台 1 7-3

TEL 047-372-0141 FAX 047-373-4010

---